

Meiwaku and Mafan: A Contrastive Semantic Analysis of Expressions for Annoyance in Japanese and Chinese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/9638

日本語「迷惑」と中国語「麻烦」の意味・用法の対照的考察

近藤 明・邢 叶青
けい よう せい
 シン イエ チン

Meiwaku and Mafan : A Contrastive Semantic Analysis of Expressions for Annoyance in Japanese and Chinese

Akira KONDOH, Yeqing XING

1. はじめに

現代日本語において、「迷惑」はある人のしたことで相手やまわりの人がまったりいやな気持ちになること。またそのようす。

(『外国人のための基本語用例辞典
(第三版)』)

他人のしたことや他人の問題がもつて、困らせられたり、わずらわしくいやな思いをしたりすること。

(『学研国語大辞典(第二版)』)

といった意味を表す。この「迷惑」は、漢文＝古代中国語でも用いられるが、例えば日本の中学校国語教科書(『国語3』光村図書 2006年度版)にも、「日本語と漢文で意味が異なる語句」として

迷惑(日本語)他人のしたことで困ること。
(漢文)どうしたらよいかわからなくなる。道に迷う。

と述べられているように、両者の意味は異なる。これは日本語の「迷惑」の意味に歴史的変化が生じたためである⁽¹⁾。一方、現代中国語の「迷惑」は古代中国語の「迷惑」の意味をおおむね引き継いでおり、その結果、現代日本語の「迷惑」と古代中国語の「迷惑」の意味も異なったものになっている⁽²⁾。

従って、現代日本語「迷惑」の中国語訳として「迷惑」をあてることはできないわけであるが、では現代において日本語「迷惑」に相当す

る中国語は何であろうか。『岩波日中辞典 第二版』(岩波書店 1983年)では、「迷惑」に対応する中国語として「麻烦」が、『詳解日中辞典』(光生館 1983年)と『日中辞典』(小学館 1987年)では「麻烦」「打搅」が挙げられている。これらの辞書のいずれもが「麻烦」を挙げており、例文においても「麻烦」が充てられているものが多いところから、「迷惑」の最も一般的な訳語の一つとして「麻烦」を考えることができそうである。

それでは、「迷惑」の訳として常に「麻烦」が適切であるのだろうか、また両者の意味・用法はどのようなところが一致し、どのようなところが異なるのだろうか。以下これらの点を検討したい。

2. 現代日本語「迷惑」の分析

まず現代日本語「迷惑」の分析を行う。分析の方法としては、日本語ネイティブ・スピーカーである近藤の内省と、用例に基づく考察を併用する。

用例の検索は、朝日新聞の全文データベース「聞蔵: Digital News Archives for Libraries」及び『CD-ROM版新潮文庫の100冊』によった。前者は、1984年8月以降の『朝日新聞』『週刊朝日』および『AERA』誌の本文が検索できるので、1984年8月1日～同年8月31日(32件がヒット)と、2006年6月1日～同年6月30日(236件がヒット)の二つの時期を検索したが⁽³⁾、同じ

一箇月間という期間でヒット数に差がある以外は、意味・用法の面で目立った相違は認められなかった。後者の『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』では、戦後発表の作品のうち、安部公房『砂の女』、遠藤周作『沈黙』、大岡昇平『野火』の用例を主な考察の対象とした。

2-1 原因を作る者＝加害者

現代日本語の「迷惑」について、前掲の辞書記述に、「ある人のしたことで」「他人のしたことや他人の問題がもとで」とあるように、「迷惑」の原因を作る者(以下「加害者」と呼ぶこともある)が居て、それは人や社会集団(組織)であり、その行為や行為に伴う事態が「迷惑」と称せられることが多いが、

①犬が朝早くから吠えて隣近所が迷惑している(『日本語基本動詞用法辞典』例文)

②「猫のおしっこが臭いうえ、毎日鳴き声や爪を研ぐ音が鳴り響いていました。窓から猫が出入りして、そこらで糞をするので、みんな迷惑してましたよ」

(『週刊朝日』2006年6月2日号)

といった、動物の行為が原因と言える用例もある。ただしこのような場合、純然たる動物の行為としてよりも、買い手の管理・しつけの不足といった、人間の関与する問題として捉えられているように思われる。

2-2 加害の意図

前掲の辞書記述に、「こまったりいやな気持ちになる」「困らせられたり、わずらわしくいやな思いをしたりする」とあるが、そのような害を与えることが加害者の意図であるか否かに着眼する。

まず、そのような害を与えることが、加害者側にとっても意図しない意外な結果である場合がある。

③岩田社長は「需用を予測できず、お客さんに迷惑をかけた」と話した。

(『朝日新聞』2006年6月8日朝刊)

任天堂が自社の製品である「ニンテンドーDS」の需要予測を誤って生産数が過少であったため品薄となり、消費者が思うように「ニンテンドーDS」を入手できなかったことを詫びる中で用いられている例であるが、任天堂側としてもこのような事態は望ましいものではなく、できれば需要に沿った数を当初から生産したかったところであろう。

次に、害を与えること自体が一義的な目的ではなく、他の意図・目的をもって行う行為の副次的な結果である場合がある。

④「米軍基地の騒音で学校や家庭が迷惑を受けている」など豆記者たちの質問はなかなかの切れ味。

(『朝日新聞』1985年8月21日朝刊)

⑤預り証に名前を使われた全共連の吉本邦和経理部長は「名前や印鑑を使われ、迷惑だ。(中略)書類は事実無根のつくりものだ」という。

(『朝日新聞』1984年8月16日夕刊)

⑥同社は「国税局と一部見解の相違はあったが、課税処分を受け入れた。不正取引に関しては関係者に多大な迷惑をかけ、深くお詫びする。社員教育を強化し、再発防止に努める」としている。

(『朝日新聞』2006年6月2日夕刊)

④は飛行機の発着等、基地としての活動を遂行するのが目的であって、その活動に伴って騒音が生じるのはある程度想定されていることではあろうが、騒音を発生させることや、まして学校や家庭に害を与えることを一義的な目的としているわけではないであろう。

⑤は全共連の名前で書類を偽造し保証金をだまし取ったという事件で、金銭をだまし取るのが目的であり、全共連に害を与えること自体が目的ではない。ただし、それ自体が目的ではないにしても、必然的に全共連に害が及ぶ行為をそれと承知して行ったものということではあるだろう。その点、④と比べて加害の意図性が一段強いということになるだろうか。

⑥はセイコーエプソン社で社員の不正取引・着服が発覚した際の社長の記者会見での用例であるが、この場合の元社員の行為は、元社員本人にとっては故意の行為であり、会社の関係者に害を与えること自体が目的ではないにしても、会社の関係者にも必然的に害が及ぶと分っていて行った行為であろう。この場合、直接の加害者でなく、加害者の属する組織の上司・トップといった責任を持つ立場の者が、加害者の行為に気づいてコントロールすることができず、加害を防止できなかったとして謝罪しているのであるが、このような謝罪の場面での「迷惑(をかける・かけた)」の使用は、一種の慣用的表現として定着している観すらある。

加害そのものを主要な目的として行う場合、「迷惑」が使われることは少ないが、次の例はその可能性も考えられる。

⑦調べでは、六人は七月二十四日午前二時ごろ、小田急線下北沢駅近くの同区代沢五丁目の路上で、爆竹を続けざまに鳴らして、たまたま通りかかった同区三軒茶屋、専門学校生Aさん(20)に「近所迷惑だからやめろ」と注意された。(『朝日新聞』1984年8月17日朝刊)

爆竹を鳴らすこと自体を楽しんでいたのだとしても、多くの人が就寝している午前二時頃という時刻を考えれば、近所の人が安眠を妨げられる等の被害が必然的に伴うことは容易に想定されるし、むしろそのような加害そのものを主要な目的として意図した愉快犯的行為と取られても仕方のないところであろう。ただ、通りかかったAさんの立場からは、六人の行為がそのような加害を意図したものであるか否か断定はできないから、意図的と断定する言い方ではなく、「近所迷惑」と評したのかも知れない。

2-3 被害の程度

前述の「こまったりいやな気持ちになる」「困らせられたり、わずらわしいいやな思いをしたりする」のような害を「被害」と呼び、その「被

害」の程度に注目してみる。

「迷惑」で表される被害の種類・程度としては、①②④⑦のような騒音・悪臭等による生理的不快感、⑤のような経済的損失や社会的信頼の失墜、その他心理的負担・精神的負担などが挙げられるが、被害の程度が人が死ぬ程の深刻なものであることは少ないようである。

被害の程度が人が死ぬほどのものである例としては、次のようなものが見られた。

⑧「たばこは、吸っている人よりも、周囲の非喫煙者が被る迷惑の方が甚大です。」

(『朝日新聞』2006年6月3日 週末)
非喫煙者にとって匂いが嫌であるとか煙いとかいう程度にとどまるのなら、生理的不快感という程度だが、副流煙により健康を損なうことまでも指しているのであれば、悪くすると命を失う結果にもなる。ただそうだとすると、そのような結果がただちに出るわけではなく、将来においてそのような結果を招く可能性が高まるということである。このように、将来の可能性・蓋然性といった程度にとどまる場合、被害の程度が命に関わるほどのものであっても「迷惑」の使用が可能となるようである。「迷惑駐車——交通事故の誘因になり得るし、それが死亡事故である可能性もある——というのも、この部類であろうか。

しかし、次の⑨の例は「将来の可能性・蓋然性」というよりかなり強い「必然性」に近い関連があるものと考えられる。

⑨「パードレ、お前らのためにな、お前らがこの日本国に身勝手な夢を押しつけよるためにな、その夢のためにどれだけ百姓らが迷惑したか考えたか。見い。また血が流れよる。何も知らぬあの者たちの血がまた流れよる」

(遠藤周作『沈黙』VII)

『CD-ROM 版新潮文庫の100冊』p.362) 宣教師セバスチャン・ロドリゴに対する日本人の通辞の発言であるが、この場合の被害は、信者らが過酷な弾圧——棄教しなければ多大の

苦痛の末に命を失うほどの一を受けるとである。信者にそのような害をもたらしながらも布教しようとしていることを、通辞は非難しており、その中で「迷惑」を使っているわけだが、直接の加害者はパードレではなくキリスト教を禁止している日本の為政者であること、布教自体は善意に基づく行為であることを斟酌した言葉遣いという面があるか。

更に次の例になると、故意でかつ殺害自体を目的とした加害行為について「迷惑(をかける・かけた)」が使われたものと考えられる。

⑩「今回の事件で、多方面に多大な迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。

容疑者と被害者が本大学の学生であることは遺憾で痛恨の極みだ」と述べた。

（『朝日新聞』2006年6月29日朝刊）

女性との交際に関するトラブルから、男子大学生ら二名が集団暴行を受けた上に生き埋めにされて死亡した事件の、容疑者の一人と被害者の一人が在籍する大学の学長が会見で述べた言葉である。被害には、大学の評判が落ちたことにより一般の在学生・卒業生が受ける社会的不利益や精神的苦痛といったものも含まれるのだろうが、被害者が殺されたことも当然含まれるであろう。

組織の一員が行った行為ではあるが、組織の指導者・上司・トップが気づかず、コントロールできなかった行為について組織の代表者・責任者が謝罪する場合、加害行為の実行者本人にとってその行為が意図的であっても「迷惑」が使われ得ることは、用例⑤に関して前述したが、そのような条件下では、被害の程度が人の死を伴うようなものであっても、「迷惑」の使用が可能ということになるだろうか⁽⁴⁾。

以上、特に2-2 2-3において述べたことをまとめると、

○加害自体を意図して行われた行為に対して「迷惑」が使われることは少ないが、他の意図・目的をもって行う行為の意図せざる

結果として害をもたらしてしまう場合(④)、あるいは加害が一義的な目的ではないにしても必然的に加害を伴う行為をそれと知って行う場合(⑤⑥)等に、「迷惑」が使われることがある。

○被害の程度が、人が死ぬほど深刻なものである場合は「迷惑」が使われることは少ない。ただし、将来の可能性・蓋然性の域にとどまるようなものである場合(⑧)、「迷惑」と称される行為の実行者が直接の加害者ではなく、その行為自体は善意で行われたと解釈される場合(⑨)、話し手が直接の加害者ではなく、加害者の属する組織の上司・責任者等で、加害行為が行われていることをその時点では知らず、コントロールできなかったという場合(⑩)等には、「迷惑」が使われることもある。

といったことになるであろう。

加害自体が意図的で、かつ人が死ぬような被害をもたらす行為の直接の加害者が、その行為について「迷惑(をかける・かけた)」を使うことは考えにくいと思われるが、次の⑪はそれに該当する。

⑪K 容疑者は「罪を償いたい。被害者や家族に本当に迷惑をかけた」と謝罪した上で(中略)H が報復を提案し、賛成した」と経緯を説明した⁽⁵⁾。

（『朝日新聞』2006年7月4日夕刊）

⑩と同じ事件の直接の加害者が、自分の行為を認めた上で「迷惑をかけた」と言っているのだが、この用例は、日本語ネイティブ・スピーカーである近藤としても違和感が強い。強いて言えば、主導的な役割を果たしたのは自分ではなくHであって完全に自分の意志的な行為ではなかったことをアピールしたい意図に基づくものであろうか。

「迷惑」については、「迷惑だ」「迷惑する」「迷惑をかける」等を特に区別することなく、被害者

側からの使用・加害者側からの使用による違いの有無についての考察も不十分である等、なお多くの課題を残しており、今後よりきめ細かな考察を期したい。

3. 現代中国語「麻烦」の分析

次に、現代中国語「麻烦」の分析を行なう。

「麻烦」の分析に当たっては、中国語ネイティブ・スピーカーである邢の内省と、用例に基づく考察を併用する。

用例の検索は、「環球在线」「人民网」(主に2006年以降の記事を検索)、および「中国文学网」によった。後者については、『漢語大詞典』に用例が揚げられている作家である魯迅・老舍・曹禺の作品を検索の対象とした。

なお以下に中国語の用例を示す場合、邢による日本語訳を付す。

3-1 原因を作る者=加害者

先に2-1で見たように、日本語「迷惑」では、その原因を作る者=加害者が居て、それは人や社会集団(組織)であることが多かった。これに対し、中国語「麻烦」では、特に原因を作る者=加害者が想定されない場合がある。

⑫“我一向只以为她满肚子是麻烦的礼节罢了，却不料她还有这样伟大的神力。”

(魯迅《朝花夕拾・阿长与〈山海经〉》)

訳「僕は彼女が煩瑣な礼儀を身に付けているに過ぎないと思いきや、まさか彼女にはこんな偉大な神力があると思ひもなかったのだ。」

⑬有关专家认为，学员在职业学校可以将理论知识很快转为实践，这样学生可以找到很多乐趣。其次，学员也逐步完成由学生到社会人的过渡，如表现好的话，还可在实习期后直接在实习企业由学徒转为正式工，省去找工作的麻烦。

訳(略)もし、パフォーマンスがよければ、実習先の企業で直接に実習生から正社員

になれ、職を探す手間を省ける。

(『環球在线』 2007年8月25日)

⑭の場合、単なる「煩瑣な礼儀」というだけのことである。⑬の場合、実習生から正社員になるコースをとることができれば、「麻烦」を省くことができる、ということであろう。それに比べて、そうでない通常の職探しは「麻烦」だということにもなるが、それは特に恵まれた環境にない限り、普通の職探しの際にかかる手間であり、誰か他人の行為のために不必要な手間をかけさせられる、ということではない。この場合も、特に「麻烦」の原因を作る他者としての加害者は想定できない。

また「麻烦」には、加害者と被害者が同一と思われる場合もある。

⑮在今年的中期选举中，如果共和党要改变伊拉克政策，在11月选举前撤军，麻烦将会更多。(『人民网』 2006年8月31日)

訳もし今年の中選挙挙期間中、共和党がイラク政策を変換すれば、選挙前の11月に撤退して、さらなる面倒なことになるだろう。は、アメリカ共和党政府がイラク政策を転換して選挙前にイラクから撤退することが原因で、さらに面倒な思いをする、ということである。この場合、さらに面倒な思いをするというのは、中選挙挙で共和党が野党民主党に負けることをさしているのだが、そのような事態を招く原因を作ったのは共和党自身ということになると考えられる。すなわち、アメリカ共和党が、被害者であると同時に加害者でもあるということである。一方、日本語の「迷惑」では、その原因を作った加害者は他人—被害者とは別の人や組織—であり、このような場面では「迷惑」の使用は不可能と思われる。

被害者と別の加害者が想定できる場合、その加害者は人や社会集団(組織)であることが多く、この点では「迷惑」と共通するようであるが、次の用例のようにセミヤ、子犬のようなペットであることもある。

⑮熊蟬来勢凶猛の北上運動給日本の許多地方都带来了極大的麻烦,它们高達 95 分贝的鳴叫声使許多城里人根本无法安靜地入睡。(略)于是,日本政府 16 日正式將蟬的鳴叫声宣布为噪音污染。

(『環球在綫』 2007 年 8 月 17 日)

〔訳〕クマゼミの凶暴な北上運動が日本の沢山のところで多大な迷惑をかけている。95 デシベルに達する鳴き声が大都会の人々に静かに眠らせない。(略)そこで、日本政府は 16 日に正式に蟬の鳴き声を騒音汚染と定めた。

⑯*男生好像很少养宠物,我同学养过一条小蛇,见过几面就没再见了;有看过有女生养小蛇,可爱得不得了。我也想养,又怕会很麻烦。”一男生在问卷中附上这样一段话。

(『人民網』 2007 年 4 月 18 日)

〔訳〕「男子学生全員がペットをあまり飼わない、あるクラスメートは小蛇を飼ったことがあります、何度か見たが、その後一度も見ていない。僕は女子学生が子犬を飼っているのを見て、子犬がかわいくてならなかった。僕も飼おうと思っているが、困らせられることを恐れている。」と、ある男子学生がアンケートにこう書いていた。

⑮の場合は、クマゼミという野生動物が鳴くことが原因であり、⑯の場合はペットの動物の手間にかかる性質や行為が原因と考えられる。ただし、日本語「迷惑」は、クマゼミのような人間の飼育していない生物に対しては、人間による環境変化のためにクマゼミが異常に増えたなど、人間が何らかの形で関わる問題として捉えている場合でないと、(全く不可能ではないが)使いにくいように思われる。⑯はペットの動物についての例であるが、「迷惑」はやはり、ペット業者や前の飼い主など、人間が何らかの形で関与している問題でないと使いにくいように思われるのに対して、この用例は必ずしもそのような含みはなく、その動物自体が生来持っている性質やその性質に基づく行為によって困

らせられるということのようである。

このような違いがあるとすると、例えば中国語を母語とする者が、単純に「麻烦」=「迷惑」と理解して、日本語で

子犬を飼い始めたのですが、意外に手間がかかって迷惑しています。

と言った場合、本人は中国語「麻烦」から類推して、子犬が本来持っている性質やその性質による行為—誰か特定の人間に責任があることではない—のために手間がかかって困っているということを言おうとしているのに、日本語話者には、ペット業者なり前の飼い主なりといった特定の人間に責任のある問題として非難しているように受け取られ、誤解を招く、といった事態が生じる恐れもありそうである。

3-2 加害の意図

3-1 で述べたように、「麻烦」には加害者が居ない場合、被害者と同一である場合、セミや、猫・子犬といった動物である例がある。これらの場合、加害の意図があつての行為ではないであろう。また、人間や人間の組織が原因を作る者=加害者である例を見ても

⑰手机无端出故障所带来的麻烦最令消费者难以接受,他们往往愤怒地选择投诉和索赔。

(『人民網』2006 年 9 月 4 日)

〔訳〕携帯電話の思いもよらない故障による面倒なことは、利用者がもつとも受け入れがたく、彼らは怒りながら訴えや賠償請求に走ってしまうことはしばしばである。

という例は、携帯電話会社の不手際が原因であるが、故障によりユーザーを困らせたり怒らせたりすることは、携帯電話会社側にとっても好ましくないことであり、意図しない意外の結果であると言えるだろう。

加害が意図的、あるいはそれ自体が第一目的ではないにしても必然的に加害を伴う行為をそれと知っていて行なったもの、という例は多くはないが、次のようなものが見られた。

⑱在美国强势的压迫下,絶大多数国家不得不

对美国或“低头”、或“示好”、或“沉默”，否则自己就会面临更大的“麻烦”。

(『人民网』2003年9月11日)

〔訳〕アメリカの力の前で、大多数の国がアメリカに対して、「頭を下げる」か「友好を示す」か「沈黙」かの態度を示さざるをえない。でなければ、自分の国はさらなる面倒なことに直面するだろう。

⑬牟钟璘表示，韩国的宗教旅行者在国外遇到麻烦已经不是第一次，但这些宗教团体似乎是“铁了心”，一直置政府的劝告于不顾。

(「人民网」2007年7月28日)

〔訳〕牟钟璘延世大学教授は、韓国の宗教旅行者は外国で面倒なことにあうことがもう初めてではない。しかし、これらの宗教団体の態度が固く、政府の勧告をずっと無視していたとの見解を示した。

⑭はアメリカによる何らかの加害行為が予想されるということであり、アメリカにとっては意図的な行為であろうが、まだ実際に行なわれたことではなく、将来における可能性・蓋然性の予測にとどまる用例である。このような場合、加害者にとっては意図的行為でも、「麻烦」の使用が可能ということかと考えられる。

⑮はアフガニスタンに入国した韓国のキリスト系ボランティア団体が、タリバンに人質として捕えられた事件の報道で、7月28日の時点においては、リーダー格の牧師がすでに殺害されており、韓国政府とタリバンとの交渉も難航している段階である。加害者であるタリバンの第一目的は、韓国軍の撤退や身代金の要求であろうが、人質に害を与えることは第一目的ではないにしても、必然的に伴う被害と言えるだろう。しかも、この場合、人質の自由の拘束や一部の殺害という被害は既に発生しており、既定のことである。しいて言えば、進行中の事件であって、事件の全体像としてどのような規模の加害行為が行なわれることになるのかが未確定であり、可能性・蓋然性の予測にとどまる⑬に近いところがある、ということであろうか。

3-3 被害の程度

「麻烦」で表される被害の種類・程度は、⑮のクマゼミのような騒音等による生理不快感、⑰の携帯電話の故障による不便さ（場合によっては経済的損失を伴う）など多岐にわたるが、被害の程度は人が死ぬほどの深刻なものであることは少ないようである。

被害の程度が、人が死ぬほどの深刻なものである例としては、前掲の⑱⑲が挙げられる。⑱は、アメリカの軍事力を強く意識していると思われる記事で、軍事力の行使といった事態は必然的に少なからぬ人の死を伴うが、将来における可能性・蓋然性の予測にとどまる点、前述の通りである。また⑲は、報道の時点で既に一部の人が殺されており、既定のことであるが、事件の全体像として死亡者が何人になるかはまだ予測のつかない段階であり、その意味でやはり⑱に近いところがあるのかと思われる。

邢は中国語ネイティブ・スピーカーであるが、中国で暮らしたのは高中生（日本の高校生に相当）までであるせいも、「麻烦」の⑮⑯⑱⑲のような用法は、自分の内省では考えつかず、意外なものであった。そのような面も含めて、本稿における「麻烦」の分析には未熟なところがあると思う。更に精密化することをめざしたい。

4. 「迷惑」と「麻烦」

以上、「麻烦」について前節で述べたことをまとめると、大体次のようなことが言えると思う。

○「加害者」については、特に居ない場合、加害者と被害者が同一である場合、加害者が動物である場合にも使われ、その点「迷惑」よりも用法が広いと言える。

○「加害の意図」については、特に加害者が居なかったり、動物であったりする場合はもちろん、加害者が人間である場合も、意図しない意外な結果であることが多い。

○「被害の程度」は人が死ぬような深刻なものではないことが多い。

○加害が意図的である場合、被害の程度が人が死ぬほどのものである場合もあるが、その場合は将来における可能性・蓋然性の予測にとどまったり、加害行為の全体像・規模が未確定な場合である。

この中の特に第四点に関しては、日本語「迷惑」が、意図的な行為や人の死を伴う重大な被害をもたらす行為について使い得る条件が比較的多様であったのに対して、そのような場合に「麻烦」が使われる条件はかなり限られたものである、ということが言えそうである。

「迷惑」と「麻烦」のこのような相違に関する理解が不足したまま、日本語で「迷惑」と表現されたものを単純に「麻烦」に置き換えるといった機械的な翻訳を行ってしまうと、誤解が生じる恐れがあるだろう。特に日本と中国が加害・被害の当事者であるような話題においては、不必要な感情的齟齬を招く結果になりかねず、注意が必要なところであろう。

「麻烦」の他に「迷惑」の訳として使われる中国語には「打搅」等もあるが、本稿においてはそれらの考察にまで及ぶことはできなかった。今後の課題としたい。

付 田中角栄首相の「迷惑」

1972年9月25日、日中首脳会談のために訪中した田中角栄首相(肩書は当時のもの。以下同)が、周恩来首相主催の晩餐会において述べた挨拶の言葉の中で、「過去数十年間にわたって日中関係は遺憾ながら不幸な経過をたどってまいりました。この間、わが国が中国国民に多大のご迷惑をおかけしたことについて、私は改めて深い反省の念を表明するものであります」と述べ、この中の「わが国が～」以下は「我国給中国国民添了很大的麻烦、我对此再次表示深切的反省之意」と訳されたが、それに対して、翌日の第二回首脳会談の冒頭において周恩来首相は「しかし、田中首相の『中国人民に迷惑をかけ

た(添了麻烦)』との言葉は中国人の反感を呼ぶ。中国では迷惑(麻烦)とは小さなことにしか使われないからである」と厳しく追及したという。

この前後の経緯は矢吹晋(2004)に詳しく、「迷惑」の訳語として「麻烦」を充てることの適否についても論じられているが、言語的な観点から現代日本語の「迷惑」と現代中国語の「麻烦」について詳しく考察することは必ずしもなされていない。そこで、本稿での考察を踏まえて、この問題について若干の見解を述べておくことにしたい。

「迷惑(をかける・かけた)」が、非意図的で、人の命が失われない程度の被害をもたらす行為に対してのみ使われるのであれば、日中戦争を中心とした「過去数十年間」の日中関係に言及・謝罪する言葉としては、明らかに不適であろう。

しかし、本稿で述べて来たように、「迷惑(をかける・かけた)」の意味はそこまで限定されるものではない(⑩の例は少なからぬ違和感があり、除くとしても)。周首相の追及に対して田中首相は「日本語で『迷惑をかけた』とは万感の思いをこめておわびをする時にも使うのです」と述べたというが、「迷惑(をかける・かけた)」が場合によっては重大な事態に対しても使われ得るのは本稿で考察してきた通りであり、田中首相のこの見解は、「迷惑(をかける・かけた)」の意味・用法の実態から著しくかけ離れたものとは言えないであろう⁶⁾。

問題はやはりそれを「(添了)麻烦」と訳したことであろう。既に起きた事実であり、被害の程度も確定している日中戦争について「麻烦」を用いるのは不適で、加害の意図性や被害の程度についての認識に著しく欠けるように受け取られても無理のないところである。

この場面での田中首相の「迷惑(をかけた)」の使用について、政治的・外交的立場からは種々の意見があるだろうが、少なくとも中国語訳「麻烦」から中国語話者が感じ取るような軽い認識でなかったとは言えるのではないかと⁷⁾。

とすれば、訳語選択の不適切さが無用の誤

解・摩擦を招いた例と言わざるを得ない。このような事態を回避するためにも、日中両語の意味・用法についての地道な考察の積み重ねが期待されるところであろう。

注

- (1) 日本語「迷惑」の意味の歴史的变化に関しては、大塚光信 (1971)、佐藤喜代治 (1979)、福島邦道 (1983)、大塚光信 (1990)、堀口和吉 (1996) などがあるが、「迷惑」が現代と同様の意味で用いられるようになった時期は、これらの研究でも必ずしも明らかにされていない。邢は金沢大学教育学部卒業論文で、東海道中膝栗毛や春色梅児替美では現代の「迷惑」の意味にかなり近くなり、漱石の頃には現代とほぼ同様になっていると見当をつけたが、十分な調査・検討に基づいたものとは言えず、今後の解明を期したい。
- (2) 例えば文化庁 (1983) でも、現代日本語の「迷惑」と現代中国語の「迷惑」の関係は「D」(「日本語の漢字書きを中国語と理解すると別の意味になるもの」) に分類されている。
- (3) ただし用例⑩はこの期間外のものである。
- (4) この場合、事件が会社の業務に関連して起きたとか、大学の構内で起きたとかいうのではなく、大学以外の場所で起きたもので、その点組織としての関与度が相対的に少ないことも、「迷惑」の使用を可能にしている条件の一つであるかもしれない。
- (5) K、H は記事では実名であるが、裁判中の事件であることからイニシャルによる表示とした。
- (6) 戦争の加害について「迷惑(をかける・かけた)」を使った例としては、次のようなものもある。この場合、発言者は政治家ではなく、捕虜収容所の中の捕虜という設定である。
「こんな大がかりな戦争で、こんなところまで攻めこんできて、ビルマ人にもひどい迷惑をかけた」
(竹山道雄『ビルマの堅琴』
第二話「青い鸚哥」三
『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』p.112)
- (7) 田中首相が中国以外の過去の交戦国について「迷惑(をかけた)」を使った例として
第二次戦においては最も迷惑をかけたアメリカが沖縄返還に踏み切ったわけでございます。

(1974 年 4 月 9 日 参議院予算委員会)

というものがある。過去の交戦国のうち、ことさらに中国に対してのみ「迷惑(をかけた)」を使って加害を軽いもののように言い繕おうとした、というわけではないようである。

参考文献

- 大塚光信 (1971) 『キリシタン版エソポ物語付古活字版伊曾保物語』(角川文庫 同書はのち増補・修正して『キリシタン版エソポのハプラス私注』(1983 臨川書店))
- 大塚光信 (1990) 「迷惑」(『国語国文』59-7 のち『抄物きりしたん資料私注』清文堂 1996)
- 佐藤喜代治 (1979) 『日本の漢語』(角川書店)
- 福島邦道 (1983) 「迷惑考——対訳による——」(『国語国文』52-2)
- 文化庁 (1983) 『漢字音読語の日中対応』(大蔵省印刷局)
- 堀口和吉 (1996) 『「迷惑」考』(『山辺道』40)
- 山田孝雄 (1940) 『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館)
- 石井明・朱建栄・添谷芳秀・林暁光(2003) 『記録と考証 日中国交正常化・日中平和友好条約締結交渉』(岩波書店)
- 矢吹晋 (2004) 「田中角栄の『迷惑』毛沢東の『迷惑』昭和天皇の『迷惑』」(『諸君!』36-5 のち『激辛書評で知る中国の政治・経済の虚実』日経 B P 社 2007)
- 辞書
- 倉石武四郎・折敷瀬興編『岩波日中辞典 第二版』(岩波書店 1983)
- 北京外国語学校編『詳解日中辞典』(光生館 1983)
- 対外経済貿易大学・商務印書館・小学館共同編集『日中辞典』(小学館 1987)
- 文化庁『外国人のための基本語用例辞典(第三版)』(大蔵省印刷局 1990)
- 金田一春彦・池田弥三郎編『学研国語大辞典(第二版)』(学習研究社 1988)
- 小泉保他編『日本語基本動詞用法辞典』(大修館書店 1989)

漢語大詞典編輯委員會・漢語大詞典編輯處編纂『漢語大詞典』漢語大詞典出版社(1986～1994)

資料

『CD-ROM 版新潮文庫の 100 冊』（新潮社）

聞蔵：Digital News Archives for Libraries

国会議事録検索システム <http://kokkai.ndl.go.jp>

人民网 <http://www.people.com.cn/>

人民网搜索頻道

<http://search.people.com.cn/was40/people/GB/index.htm#2>

環球在線 <http://www.chinadaily.com.cn/hqzx/index.html>

中國文学网 <http://www.chineseliterature.com/index.htm>

その他

NHK テレビ「その時歴史が動いた 日中国交正常化 35 周年」(2007 年 9 月 26 日放送)

[校正時付記]

中国語表記を簡体字に統一しきれなかった部分があり、また簡体字と他の字とに活字のサイズ・書体等の面で不統一が生じる結果になった。視覚上の違和感は免れないが、印刷上の制約によるものとして御理解いただきたい。